

近畿運輸局 栗原自動車交通部長と女性組織代表者との懇談会 議事概要

日時：平成 30 年 5 月 17 日（木） 午後 1 時 15 分～午後 2 時 15 分

場所：大阪府トラック協会 研修センター601 号室

参加者：

【国土交通省近畿運輸局】

自動車交通部長	栗原 弥生
自動車交通部 旅客第一課係員	石松 佑理
自動車交通部 旅客第二課係員	阪下 理央

【女性経営者】

(一社) 大阪府トラック協会 女性経営者懇話会 会長 榎運送(株) 専務取締役	下村 昌子
(一社) 京都府トラック協会 女性部会 (女性経営者サツキ懇話会) 部会長 (株)室戸ライン運輸 取締役	室戸 礼子
(一社) 兵庫県トラック協会 女性経営者部会 (天狼会) 会長 中播運輸工業(有) 専務取締役	櫻井 典子
(公社) 奈良県トラック協会 女性部会 部会長 川端運輸(株) 代表取締役	川端 章代
(一社) 滋賀県トラック協会 女子部会 副部会長 (株)ケン・トップカーゴ 代表取締役	兼山 薫
(公社) 和歌山県トラック協会 (有)大原運送 代表取締役	大原 貴美

【事務局】

(一社) 大阪府トラック協会 専務理事	滝口 敬介
同 企画室係	林 鈴佳

(栗原部長 冒頭挨拶)

最近の深刻な労働力不足で、即戦力を確保するということが大事ですが、持続的、根本的に解決していくためには、女性や若年層の獲得が大事になってくると思っています。

トラック事業においては、個々の経営者の皆さんはもちろん業界を挙げて人材の確保に取り組んでおられます。しかし中々雇用に結びつかないとか、就職していただいても中々定着しないとか、いろんな問題があるということを我々も認識しています。

今日はこうした状況を打開するためにどうしていけばいいのか、先行している取組などあればどういうものがあるのか、そういったところの皆さんのお知恵をいただきたいと思っていますし、情報を共有させていただきたいと思い、この場を設定させていただきました。

近畿についてはトラック事業に携わっている女性経営者の方がたくさんいらっしゃいます。また、横連携をよくとられていて、積極的に勉強会を設けられたり、情報交換の場が設けられていますし、長い歴史を持っておられる地域もある。その活動に敬意を表したいと思っております。

今日はこれまでの皆様の経験や知識をお聞きして、女性の視点から忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

1. 自由討論 女性、若者ドライバーを採用するための問題点について

【大阪府トラック協会 広報担当（林）】

（女性ドライバーの取材をして）

トラック広報のインタビューで4月から6月まで女性ドライバーを3人取材した。3人とも運転が好きでトラックに乗ってみたいという気持ちからドライバーになられた。力仕事もあるがやりがいを感じると言っていた。

取材した社長のお話では、女性ドライバーを雇用してよかったところとして社内の雰囲気明るくなったとのこと。それと荷主などに柔らかい印象を与え、取引先の人とのコミュニケーションの中で女性なりの気配りなどが出来て好印象を与えることが出来る。ただ、どこの運送会社も男性が多いのでトイレ、シャワー室などの女性専用設備が手薄なところがあるので、改善していかないと行けないと言っていました。引き続き今後も女性ドライバーを採用していきたいとのことでした。

3回の取材を終えて、トラックの大きさ、荷物の種類、ドライバーの性格などすべて違いましたが、一つ感じたのは取材を受けていただいた会社は常々女性ドライバーとコミュニケーションを図っておられ、ある会社では、社長が弁当を持ってきてドライバー全員と、もちろん女性ドライバーも一緒に毎日食事を食べられているところもありました。

男性ドライバーも女性ドライバーに気を遣うこと無く、明るく笑顔でお仕事されているのがとても印象に残りました。

【栗原部長】

バス、タクシーについても懇談会を開催して意見を聞いたが、経営側からは、保育所など施設面で対応が必要になるのではないかという心配の声があった。一方で、ドライバーからは施設面もさることながら勤務時間の柔軟性を求める声が多く、最初から施設についてそんなに心配しなくても、勤務時間などドライバーのニーズにあった働き方が出来れば、女性や男性の若者も含めて、トラックドライバーとしてはいつてくるようになるのではないかと思いますでしょうか。

【各女性経営者の意見】

- ・ 運送業は労働時間が長い。今は働き方改革で労働時間の縮減が求められているが、個々の会社では対応が難しい。運賃や待ち時間の問題など荷主の理解を得るのも難しい。睡眠時間を運転者にしっかり与えられて十分な給料が払えれば、女性を雇う余裕も出来るのだ

が。

- ・荷待ち時間がどうしても大きい。定時に出勤して定時に帰社出来る体制が出来れば女性も来てくれると思うが、そうではない。

労働時間が物流の世界では一番大きい問題だと思う。

- ・親類で看護師をしているものがあり、運転者と同じく労働時間の長い職場であるが、子供が熱を出したりして急に休まなくてはならない時は、他の看護師がフォロー出来る。しかし運転手には代わりがおらず、中々それが出来ない。

他の会社だが、女性ドライバーは荷物の扱いが丁寧で評判がよい。その女性に話を聞くと、15時間くらい働いているとのことであったが、彼女は独身ということなので出来ているが、子育てをしている女性には、こんな勤務は難しい。

運賃や荷待ち時間が長く、無茶を言うてくる荷主がいるが、適正運賃をもらうように荷主に交渉しても、他にその無茶な要望に応える別の運送会社がある。あまり言うと、仕事を干されてしまう。業界全体のモラルの問題です。

- ・荷待ち時間が長い。このことを荷主に言っても荷主自身がどうすればいいのかわかっておらず、対策はそっちのけになっている。これによりどうしても労働時間が長くなる。こういった問題が解決されない限り女性ドライバーに来てもらうことは難しいでしょう。

- ・当社ではシャワー室、トイレは男性と一緒に、更衣室は特に設けていない。

これまで、先代の教えとして従業員が会社（社風）に慣れてもらえということがあった。

当社のトイレが和式で、前に姪に仕事を手伝ってもらった時に、和式の使い方がわからないそうで、どうしても我慢出来ないときは、近くのコンビニのものを使っていたという。

このときにトイレなどの施設の整備というものが、従業員にとって大事なことだということに気がついた。

若い人がトラックに興味をもってもらうように、トラック協会の行事などに積極的にきてもらえればいいのではと思う。

- ・一年半前にフォークリフトを運転する女性、リフトレディを採用した。それから職場の雰囲気はよくなった。その女性が言うには、備車（他社）の車が来て久しぶりにこの女性の働いている姿をみて「上手になったね」と言われることがあるが、彼女は志を高く持って仕事に臨んでおり、練習して技術が向上するのは当然だと思っているのに、女性だからそのようなことを言われているような気がするということで、いやがっていた。

トレーラーの運転手に女性があり、評判のいい人だったが、退社してしまった。原因として給料はいいのだが、帰れると思っていた時間に帰れないことが多く、家庭との両立が出来ないということであった。給料は安くても、もっと労働時間の短いところがいいと言っていた。

小さな会社では、何人も女性を雇うことは難しい。理由としては、施設が整わない、家庭との両立が出来ない。どうしても男性と比べてしまう。などがある。

【栗原部長】

荷待ち時間が長くなり、拘束時間が長くなるのは確かに大きな問題。荷主そのものに実情を理解してもらい、荷待ち時間を減らしてもらうよう、運輸局では労働局、経産局と連名で荷主に働きかけています。あまりにもひどい荷主には勧告することも出来ます。

若い人に職場体験など、一度経験してもらえれば、この仕事のことを理解して携わってもらえると思う。これまで各業界から話を伺った中で、経営側から出た意見として興味深かったのは、経営サイドであまり女性ドライバーに任せる仕事内容などを決めつけない方がいいのではないかと、というものであった。女性も個人の考えやライフステージによって対応可能な幅が異なることから出た発言と思われるが、考えさせられた。トラック事業についても、扱う荷種によって異なる面はあるものの、女性には出来ないと決めつけなくてもいいのではないのでしょうか。

【滝口専務理事】

女性だからこの仕事という考えは今後なくなっていくのではないのでしょうか。若い人のデートとかでも女性が運転していることが多いですね。結婚しないで仕事を続けるという女性も多いです。それも変化です。

もう一つ、SNSはとんでもない速度で広がっています。興味を持った人がいれば一瞬で広がっていきます。こういう世の中になっていくことを前提で考えていけばいいのではないのでしょうか。

トラック協会もいろいろな発信を考えておりまして、来年1月からHPをリニューアルし、いろんな方々に見てもらえるように準備しています。

トラック協会は、今後も色々な発信ができるように努力していきたいと思っています。